

言葉の魔法

ちょっとした一言が人を変える力を持つことがある。
迷ったときの道標になる言葉、
ふと思い出して元気になれる言葉……。
確かな成果を残したビジネスパーソンたちに、
そんな言葉の魔法を聞いてみよう。

“土台となる企業文化を理解しないうちは 真の付き合いが始まらない”

来日して16年。今では「中国人であることを忘れて
いる」とよく言われる私ですが、当初はどうすれば自然
な言い回しの日本語が話せるのか、悩んだ時期がありま
した。大学院の仲間にもどこか溶け込めなかった。そん
なとき、ある雑誌で「互いの文化を理解することから実
りある人間関係が始まる」という言葉を読み、気づきま
した。自分の日本語表現が上達しないのは、日本人の背
景にある文化や考え方を理解できていないからだ。

意外なことに、その後就職した日本企業の法務職でも、
同じようなことを上司から言われました。

中国で弁護士経験もある自分が、なぜ中国でなく欧米
の案件ばかり任されるのか掛け合ったときのこと。

「土台となる企業文化を理解しないうちは相手とも付き
合えない」。そう言われたのです。それが納得できたのは、
ようやく中国案件に関わられたとき。自分が、ごく自然に
日本企業の立場で中国側と交渉していたのです。会社の
やりたいことも、日本側にとって理解し難い中国側の要
求もよくわかる。だからスムーズに交渉できました。そ
れまでの仕事で会社の考え方を学べたおかげです。最初
から中国担当だったら中国人の発想しか持てなかった。
法務の仕事も互いの文化を理解することが大切だったの
です。

現在は日産自動車で多地域の国際法務を担当していま
す。自分が何人かという意識はありません。中国人、日
本人と決めつけられないほうが、より高い視点で仕事がで
きるからです。自動車業界のなかしか知らないのも同じか
もしれません。社外ボランティアに参加して、自分と異
なる背景を持つ人と関わるようにしています。

社会にはいろいろな人がいて、いろいろなことが起こ
りうる。そのことがストレスなく受け入れられるように
なれば法務の仕事にも役立つし、その考えが社会に広ま
ることがダイバーシティにつながると思っています。



日本企業の国際法務部門で
活躍する中国人女性課長

銭 祝慧氏

日産自動車 法務室課長（国際法務）

Zhuhui Qian_1991年中国政法大学法学部卒。1992
年中国弁護士資格を取得。北京市の弁護士事務所
で約3年間勤務の後、1994年日本留学。アルバイト
で生計を立てつつ語学学校にて日本語を学ぶ。
1996年慶應義塾大学大学院に入学。1998年法学修
士号取得とともに大手電機メーカーに就職。2004
年より日産自動車勤務。翌年課長職に。在日中国弁
護士連合会副会長、在日中国科学技術者連盟常務副
会長など、社外ボランティアも多数務めている。